

# 日本糖尿病協会 表彰式

糖尿病医療や日本糖尿病協会の行う公益活動に著しく貢献した8人に、日本糖尿病協会各賞が授与されました。受賞者ごとに、正面スクリーンに大きなインタビュー映像が流れ、暗転の会場からスポットライトを浴びた受賞者が登壇。日本糖尿病協会理事長・清野裕氏と、本学術集会会長・安西慶三氏それぞれから、楯と記念品が贈られました。



## ●アレテウス賞

公益活動を通じて日本の糖尿病対策の推進に著明な貢献がある患者、または国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や患者会活動を通じた糖尿病治療や療養指導への貢献が著しい医療従事者。

## ●ウィリアム・カレン賞

原則50歳未満の比較的若手で、糖尿病対策の公益活動を積極的に推進している医療従事者。

## ●立川俱子賞

糖尿病の啓発、療養支援、国際交流などにしなやかな力を発揮する女性。

## ●日本糖尿病協会療養指導士賞

糖尿病医療の柱となる患者教育を推進し、日本の糖尿病療養指導の発展に著明な貢献があるコメディカルスタッフを職種ごとに顕彰。

## アレテウス賞

>> 和歌山ろうさい病院 南條輝志男



Aretaesus Award for Outstanding Scientific & Health Care Achievement

## ウィリアム・カレン賞

>> 福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 野見山崇

William Cullen Award for Achievement in Clinical Diabetes Research



## 日本糖尿病協会療養指導士賞 管理栄養士

>> 九州中央病院 医療技術部栄養管理科 渡辺啓子



JADEC Award for Excellent Diabetes Educator in Dietitian

## 日本糖尿病協会療養指導士賞 薬剤師

>> 新潟薬科大学 臨床薬学研究室 朝倉俊成

JADEC Award for Excellent Diabetes Educator in Pharmacist



## 立川俱子賞

>> 国保日高総合病院 栄養科 岡井明美

Tomoko Tachikawa Award



## 日本糖尿病協会療養指導士賞 看護師

>> 京都府立医科大学附属病院 看護部 肥後直子



JADEC Award for Excellent Diabetes Educator in Nurse

## 日本糖尿病協会療養指導士賞 理学療法士

>> あさひ病院 リハビリテーション科 横地正裕



JADEC Award for Excellent Diabetes Educator in Physical Therapist

## 日本糖尿病協会療養指導士賞 臨床検査技師

>> 岡崎市民病院 医療技術局 臨床検査室 夏目久美子



JADEC Award for Excellent Diabetes Educator in Medical Technologist

# 日本糖尿病協会協会賞 受賞講演

日本糖尿病協会では、毎年、協会活動を通じて日本の糖尿病対策に貢献した人を表彰しています。平成29年度の各賞受賞者から、「アレテウス賞」を受賞した南條輝志氏と、「ウィリアム・カレン賞」を受賞した野見山崇氏から、受賞講演がありました。

## 日本糖尿病協会 アレテウス賞

和歌山ろうさい病院  
南條輝志男

私は1970年に和歌山県立医科大学を卒業しましたが、大学紛争の影響による地方病院の医師不足のため、勝浦、すさみ、高野山などの小規模医療機関に勤務することを余儀なくされました。そこで、地域医療の現場でも可能な研究分野として糖尿病を選択しました。多くの患者さんを集めて患者会を設立し、学会活動にも取り組みました。当時、1型糖尿病とHLA型における人種差が注目されており、風疹ウイルスによる糖尿病症例を報告したことをきっかけに、アジア人糖尿病の比較研究に着手し、アジアの研究者と交流するようになりました。

また、異常インスリン“Insulin Wakayama”を発見し、糖尿病の原因を遺伝子レベルで証明したほか、東アジア人のみに認められるアミン

遺伝子異常を発見しました。1998年には、アジア分子糖尿病学会を立ち上げました（現在はアジア糖尿病学会の分科会）。

一方、糖尿病学会では理事として活動し、糖尿病療養指導士認定機構設立のお手伝いもしました。日本糖尿病協会では清野裕理事長の下で組織の強化を図り、日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度の設立や、CDEJとCDELの連携の質の向上を目指す療養指導学術集会の設立のお手伝いもしました。こうした活動には、地域医療の現場で、地域連携やチーム医療、協会活動を経験し、その重要性を痛感していたことが生まれました。

糖尿病医療は多職種協働で成り立つチーム医療であり、糖尿病療養指導士の皆さんはその一員です。強いチームの秘訣は論語の「和而不同（和して同ぜず）」にあります。多職種協働の場では、他の職種から尊重される個性を持つことが重要と考えています。

## ●アレテウス賞

日本の糖尿病対策に多大な役割を果たすとともに、日本糖尿病協会事業の推進に著明な貢献がある患者、または国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や患者会活動を通じた糖尿病治療や療養指導への貢献が著しい医療従事者へ贈られる賞。アレテウスは約2000年前に現在のトルコのキャパドキアで活躍した医師。糖尿病の病状を世界で初めて克明に記述し、多尿症をDiabetesと命名した。

## ●ウィリアム・カレン賞

原則50歳未満の比較的若手で日本糖尿病協会事業を積極的に推進している医療従事者を表彰。ウィリアム・カレンはスコットランドの医師、化学者。多尿症に尿が甘いタイプと甘くないタイプがあることを見出し、甘いタイプをDiabetes Melitus（糖尿病）と命名した。

## 日本糖尿病協会 ウィリアム・カレン賞

福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科  
野見山崇

現在、日本には糖尿病患者が950万人いると推定され、国民の6人に1人が糖尿病とその予備軍といわれています。近年、新しい治療（持効型インスリン、DPP-4阻害薬、メトホルミン用量拡大、SGLT2阻害薬）が導入されたことにより、糖尿病患者のHbA1cの平均値は低下し、合併症を予防できるとされるレベル（7%）に到達しました。しかし、その余命は依然として健常者よりも短いという状況です。

糖尿病治療の目標は、合併症の発症や進展を阻止して、QOLや寿命を確保し、前向きに人生を送れるようにすることです。こうしたことを踏まえ、2016年の糖尿病連携手帳の改訂は、①ひと目でわかる情報、②血糖のみならずトータルで幸せに一という2つの観点から行いました。基

本情報のページは、療養経過が一目でわかるようにしました。また、歯周病との関係を踏まえて歯科の項目を増やしたほか、一目でトータルの合併症（動脈硬化、癌、など）がわかるようにしました。高齢者糖尿病の血糖コントロールの目標を示すページも作りました。糖尿病カンパセーションマップや糖尿病療養指導カードキットのような新ツールも紹介しています。療養指導のページは、あえて空欄を多くし、患者さん自身に目標を書き添えていただくこともできるようにしました。糖尿病患者の健康寿命が糖尿病でない人より長くなり、一病息災が現実になることを夢見ています。

# William Cullen Award for Achievement in Clinical Diabetes Research

# Aretaeus Award for Outstanding Scientific & Health Care Achievement

